



## コミュニケーション品質の改善で、チームの生産性を向上する テレワークでのオーラルコミュニケーションを快適にするヘッドセット／スピーカーフォンに注目

働き方改革推進の中心的な取り組みである「テレワーク」。しかし現時点では導入に踏み切れない企業も多く、期待されているほど普及していません。原因の一つとして挙げられるのが、テレワーク時の生産性の低下の懸念です。テレワークを、一部の在宅勤務者のために活用するのではなく、すべての従業員が対応できる体制にするためには、テレワーク時の生産性をオフィス勤務時と同じ水準に引き上げる環境が必要です。

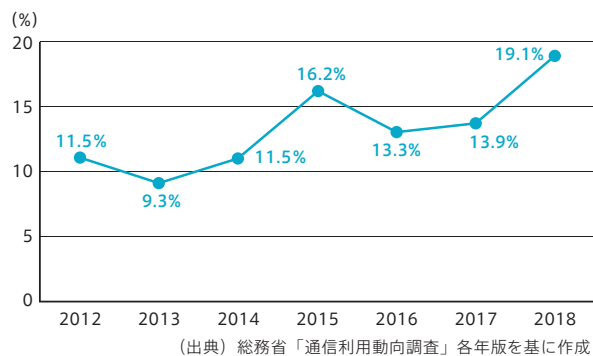
### 各企業で急速に進む 「テレワーク」導入

2019年4月に働き方改革関連法が施行されて以降、企業は労働時間の削減をはじめとするさまざまな労働環境改善策をしており、その施策のひとつが「テレワーク」への対応です。テレワークには、在宅勤務、サテライトオフィス勤務、モバイルワークなどの形態があり、さまざまな働き方を選択することができます。例えば、地方企業では、大都市一極集中の影響を受け、少子高齢化に伴う労働人口の減少により、人材難に直面しています。育児や介護で休職・離職する従業員を繋ぎ留め、働きやすい会社として認知してもらうには、テレワーク推進が欠かせません。

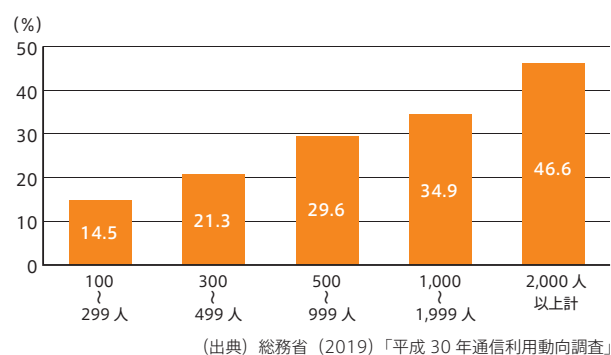
しかし日本企業のテレワーク導入率はまだまだ低いようです。総務省がまとめた『令和元年版 情報通信白書』(以下、情報通信白書)によれば、テレワーク導入率は日本企業全体で19.1%、従業員300人未満の中小企業では14.5%でした(図1、図2)。一時、テレワーク実施率は全国平均では27%と増えましたが、今後も各企業がテレワークについて取り組む必要性を感じさせる結果となっています。

(出典) 厚生労働省「第1-3回「新型コロナ対策のための全国調査」からわかったこと」お知らせします。

【図1】企業のテレワーク導入率の推移



【図2】企業のテレワーク導入率(規模別)



### 「テレワーク」導入の効果

- 労働参画の促進
- 通勤時間の短縮・混雑緩和
- ワークライフバランスの改善

テレワーク導入効果について、情報通信白書には、次の3つが挙げられています。

#### ・労働参画の促進

従来なら育児・介護、あるいは病気の療養で休職・離職を余儀なくされていた人が仕事を継続できるようになる。

#### ・通勤時間の短縮・混雑緩和

在宅勤務やサテライトオフィス勤務により、通勤時間が削減され、プライベートの時間が増え、通勤に伴う疲労が減る。

#### ・ワークライフバランスの改善

上記2つの結果として、ワークライフバランスが改善され、生活が充実することで主観的幸福度が上昇する。

## ■ テレワークによる生産性は？

一方で情報通信白書では、テレワークと生産性の関係について慎重な姿勢を示しています。「テレワークの導入が労働生産性又は全要素生産性に統計的に有意にプラスであるとする調査結果は限られている状況にある」、つまりテレワークで必ずしも生産性が上がるわけではないと伝えています。

「全従業員が在宅勤務をした場合、現在の生産性を維持できるか」。テレワークを導入している企業でも、多くの方はこの問いに対し否定的な回答をするのではないのでしょうか。現時点におけるテレワークは、「柔軟な働き方を受け入れ、従業員のワークライフバランスを改善するもの」止まりで、「できればオフィスで働いたほうが生産性は高い」と捉えられています。テレワークの必要性を認識しながらも、導入率がなかなか上がらない理由はこのあたりと推測されます。

## ■ 「テレワーク」環境は コミュニケーション品質が重要

テレワークに限らず、働き方改革を進めるうえでは、「制度改革」「ITによる支援」「意識改革」の3つが柱になるとされています(図5)。就業規則や人事評価などを新しい働き方に合わせて整備し(制度改革)、新しい技術で労働環境を整えます(ITによる支援)。そして、制度・環境が有効活用されるように、企業の文化・風土を刷新します(意識改革)。

これらの3つは並行してバランス良く実施する必要がありますが、どこから着手すべきかを言うのなら、テレワークの場合は「IT支援先行型」が理想です。制度や意識の改革を進めても、環境が追いついていないとテレワークのしようがないためです。また、テレワーク環境を整備する際は、その使い勝手にも最大の注意を払う必要があり、使い勝手が悪いと作業効率が低下して、結局はテレワークが定着しません。

[図5] テレワーク導入に必要な主な施策



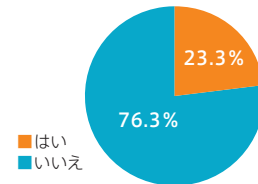
## ■ ビジネスチャットやWeb会議などの ツールが必要不可欠

特にテレワークでは、コミュニケーションがとりにくいためチームのコラボレーションが低下。そこをビジネスチャットや Web 会議システムなど、新しいコミュニケーション・ツールで補うことが必要不可欠です。しかし十分なコミュニケーションを維持できるかで、生産性は大きく左右されます。スマートフォンやノート PC に Web 会議やボイスチャットのアプリを入れれば、一通りの機能は使えるが、快適なコミュニケーションが可能になるかは別の問題です。

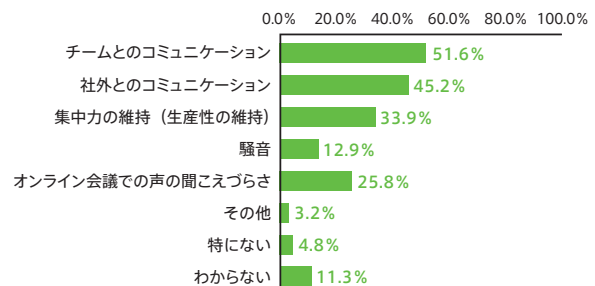
スマートフォンやノート PC のマイクは周囲のノイズを拾いやすいし、そうかと言ってモバイルワークでは大きな声を出せないシチュエーションも多い。聞き取りに関しても、周囲に響き渡るような大音量にはできないし、スマートフォンを片手で持ちながらでは、ノート PC を操作したり、紙資料をめくったりもやりづらさを感じます。

Jabra が「テレワーク」に関する調査を実施してみると、テレワークを効率的に行うためのオーディオ機材を持っていると回答した人は5人に1人と約20%程度しか導入していないことがわかりました(図3)。また、テレワーク時にオフィスで働いている時と比べて課題になることの回答では、社内外のコミュニケーションや集中力の維持が多い回答だった一方で、4人に1人(約25%)が「オンライン会議の声の聞こえづらさ」を回答した人もおり、テレワーク時における機材の重要性を伺える調査結果でした(図4)。

[図3] テレワークを効率的に行うためのオーディオ機材を持っていますか?  
(ヘッドセット、スピーカーフォン等)  
(n=313)



[図4] テレワーク時にオフィスで働いている時と比べて課題になることはありますか? (n=62)



(データ出典)

調査方法: インターネット調査 調査対象: 20代~60代の社会人男女

調査期間: 2020年2月21日~2月29日 調査エリア: 全国 サンプル数: 313







## ビジネス用ヘッドセットで 快適なコミュニケーションに

そこでぜひご検討いただきたいのが、ビジネス用に開発されたヘッドセットの導入です。リモートからの会議参加に伴う課題は、ノイズキャンセリング機能を備えたヘッドセットを使えば概ね解消します。デバイスを選定する際は、入力（マイク）と出力（スピーカー）の双方にノイズキャンセリング機能を備えているかどうかをチェックしてください。そうしたヘッドセットは周囲のノイズをカットしてくれるので、音量を上げなくても相手の声をクリアに聞くことができ、マイクも周辺ノイズをカットしてくれるので大きな声を出さなくてクリアな音声を届けてくれます。さらに両手がフリーになるので作業しながらでも会話がしやすくなります。

なお、ノイズキャンセリング機能の付いたヘッドセットは、オフィス内で集中力を高めるツールとしても役立ちます。適度なノイズがあったほうが集中できるという人もいますが、多くは静かなほうが集中しやすいでしょう。特に集中しているときに話しかけられると、再び集中するまでに相応の時間がかかるはず。ヘッドセットの中には「集中モード中」を示す LED ランプを備えたものもあるので、それが点灯しているときは話しかけないようにルール化すれば、時間あたりの生産性を高めることも可能です。



## 高品質のスピーカーフォンが 会議の質を大幅改善

ヘッドセットと並んで検討したいのが、オフィス側に設置するスピーカーフォンです。音声をより自然でクリアに相手に届けることで、対面と遜色のないオーラルコミュニケーションを実現してくれます。ノート PC のスピーカーで Web 会議をしているようなケースはもちろんのこと、すでにスピーカーフォンを設置している企業でも、最新の高性能な機種に置き換えることで、会議の質を大幅に改善できる可能性があります。

スピーカーフォンの中には、小型のポータブルタイプもあるので、自宅に仕事部屋がある在宅勤務者なら、ヘッドセットよりも小型のスピーカーフォンのほうが適しているかもしれません。

ヘッドセットやスピーカーフォンといったデバイスを導入・活用することで、テレワークにおけるコミュニケーション品質は大きく改善されます。

## テレワーク環境整備の ための助成金活用

- 働き方改革推進支援助成金（厚生労働省）
- 各自治体の助成制度

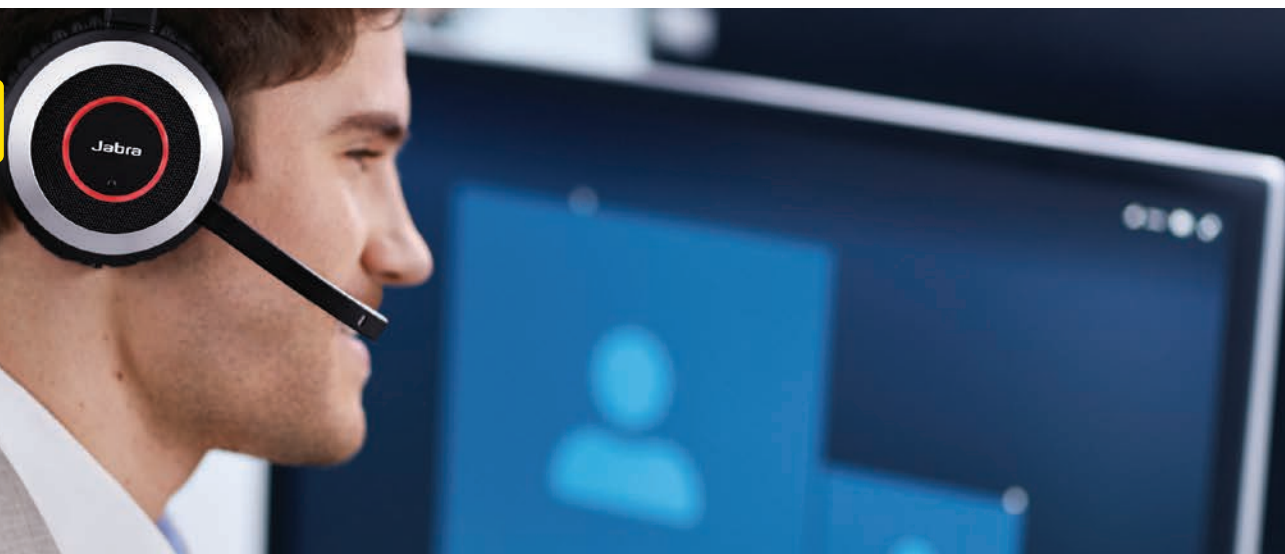
テレワークを導入するにあたり、必要数のデバイスを購入する予算確保ができないという企業は、各種助成金の活用を検討してみてもはいかがでしょうか。

働き方改革に取り組む企業を支援する厚生労働省の「働き方改革推進支援助成金（テレワークコース）」でもヘッドセットやスピーカーフォンといったテレワーク用デバイスにも適用できます。その他にも、働き方改革に対する助成金を提供している自治体があるので、各都道府県の Web サイトでぜひ確認してください。

NEXT PAGE

Jabra  
製品紹介

Jabra GN



## クリアなサウンドでテレワークでの生産性を高める

Jabraのヘッドセット／スピーカーフォン

UCヘッドセット  
スピーカーフォン  
世界シェア  
TOPクラス

Jabra は約 150 年の歴史を持つ GN グループにおいて、ビジネス用ヘッドセットやスピーカーフォン、コンシューマー向けヘッドホンなどを手掛けるサウンドソリューションのメーカーです。世界初の Bluetooth 対応ヘッドセットなど、新技術を他社に先駆けて製品化してきた Jabra では、現代の働き方の課題を解決すべくビジネスユーザーのニーズにマッチする製品をラインアップしています。

### ■ Jabra Evolve 75e

仕事とプライベートをスマートにコントロールする  
ネックバンド型ワイヤレスイヤホン

- 軽量デザインで快適な使い心地
- ANCと内蔵ビジーライトで中断を低減、集中力アップ
- ネックバンドの振動で着信を通知



■標準価格  
¥29,000

■標準価格  
¥34,000



### ■ Jabra Evolve 75

開放的なオフィス環境で集中するのに最適な  
ワイヤレスヘッドセット

- HD音声と専用設計スピーカーでクリアで明瞭なサウンド
- ANCと内蔵ビジーライトで中断を低減、集中力アップ
- レザータイプイヤークッションとオンイヤー設計で終日快適

### ■ Jabra Speak 510

持ち運びに便利なUSBおよび  
Bluetooth®対応スピーカーフォン

- 360度対応の無指向性マイクで確実に音声を届ける
- あらゆる主要なコミュニケーションプラットフォームに対応
- 少人数会議に最適



■標準価格  
¥20,000

To discover more please visit: [Jabra.com](https://www.jabra.com)

New Product

■ Jabra EVOLVE2 85

仕事にもプライベートにも使える  
最高の通話・音楽体験を実現する  
ワイヤレスヘッドセット

- 10-マイクテクノロジーで雑音を遮断し、よりクリアな通話
- 360°見えるビジーライトで中断を低減
- 最長37時間のバッテリー持続時間で終日対応可能



■標準価格  
Evolve2 85 ¥50,000  
充電スタンド付き ¥56,000



■標準価格  
Evolve2 65 ¥27,000  
充電スタンド付き ¥33,000



■ Jabra EVOLVE2 65

魅力的な音質、卓越した遮音性能、  
快適な付け心地を提供する  
ワイヤレスヘッドセット

- ワイヤレスで通話中も自由に移動可能
- 遮音設計で集中力を向上
- PC/スマートフォンの2台同時接続

■ Jabra EVOLVE2 40

魅力的な音質、卓越した遮音性能、  
快適な付け心地を提供する  
有線ヘッドセット

- 3-マイク通話テクノロジーでよりクリアな通話
- 遮音設計で集中力を向上
- 充電不要な有線タイプ



■標準価格  
Evolve2 40 ¥16,000

お問い合わせ先

GN オーディオジャパン  
<https://www.jabra.jp/>

お問い合わせフォーム  
<https://www.jabra.jp/contact/jabra-sales>